

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2017.9

vol. 137

## 脳卒中連携セミナー開催

去る平成29年8月9日(水)に鹿児島東急REIホテルにて脳卒中連携セミナーを開催しました。

平素より患者様のご紹介等で大変お世話になっている連携先の先生方と更なる連携強化を目的に、総勢49名の先生方にご出席頂きました。

本会ではまず一般講演として2017年4月より脳・血管内科（以下当科）に赴任した重畠裕也医師より「鹿児島医療センターにおける急性期脳卒中治療について～心原性脳塞栓症を中心に～」



をテーマに講演いたしました。当科では急性期の脳梗塞治療として「t-PA静注療法」「血栓回収療法」をはじめとした、高度先進的な治療を行っております。心原性脳塞栓症の治療では、効果をあげるために発症から病院到着、治療開始までの時間をいかに短くするかということが重要となります。連携いただいております先生方のお力添えもあり経年t-PA施行件数も増え、現在では年間約30件の実績となっております。また、t-PA療法ができない症例やt-PA療法を行っても効果が得られ難い大血管閉塞の症例を対象として、血栓回収療法を中心とした血管内治療も24時間体制で施行可能であり、非常に良好な成績が得られております。講演ではこの血栓回収療法について実際の症例動画も交えて紹介いたしました。当科では治療件数を増やすだけでなく、医師や看護師など関連スタッフを交えての治療症例の振り返りを行うことにより、治療の質の向上、特に治療関連時間の短縮に努め、全国的にも迅速な対応が可能となっております。

続く特別講演には横浜市立大学より石川利之先生をお招きし「抗凝固療法の神話と真実」をテーマに多くのエビデンスを基に、心房細動に伴う心原性脳塞栓症の発症及び再発予防として使用される凝固薬についてご講演いただきました。心原性脳塞栓症を減らすには、リスク・ベネフィットを考慮したうえで適切に抗凝固療法を行う必要があり、各薬剤の注意点やコツなどについて非常にわかりやすく詳細に解説いただき、主催した私どもも大変勉強になりました。

今後も脳卒中センターとして患者様、ならびに連携先ご施設の先生方のお役に立てるよう、なお一層努力してまいります。今後とも何卒よろしくお願いたします。

（文責：脳卒中センター長 松岡 秀樹）

# 就任ご挨拶



## 副院長：中島 均

この度、国立病院機構理事長発令により、8月1日付で副院長を拝命いたしました。昨年から1年4ヶ月統括診療部長として病院の経営を含めた管理の仕事を経験し、近年の急性期病院の置かれた厳しい経営環境や公的病院として担うべき地域医療構想の実現に向けた改革プランの策定など山積した問題点を認識したばかりでした。

今後は今まで以上に病院管理についての業務が増加するものと思います。さしあたっての課題としては、通信病院の機能移転に伴う病院機能拡張があります。病床増加、病院機能のレベルアップは喜ばしい限りですが、多くの急性期病院が病床をダウンサイジングすることで、在院日数短縮や、看護必要度増加を検討している状況がある中、流れに逆行するような計画です。院長やその他の幹部と共に覚悟を新たに取り組んで行こうと思っております。さらには新潟市民病院女性研修医の過労死に端を発する、勤務医の労働時間の改善問題も喫緊の課題としてあげられます。応召義務や本邦における長年の主治医制度、さらには医師自身の聖職感などが複雑に関連しており、物理的に医師の数や勤務体制の見直しなどでは簡単に解決する問題ではないと頭を悩ませております。

以上、様々に心配事を述べてまいりましたが、当院では循環器グループの念願であった鹿児島初となるTAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）を6月29日に無事施行し、8月1日現在、順調に4例目まで経験しております。このように鹿児島の循環器医療を常にリードして行くべく精進を怠らないようにして参る所存です。もちろん脳卒中やがんについても鹿児島の臨床の拠点として病院職員一同努力して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 統括診療部長：松崎 勉

この度、8月1日付で統括診療部長を拝命致しました。力不足の感は否めませんが、田中院長、中島副院長と協力しながら、診療部のまとめ役としての任を果たせるよう務めてまいりたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。これまでは、耳鼻咽喉科医として、医師及び診療施設が減少している耳鼻咽喉科の手術や入院治療を県内の医療機関の先生方との連携の下に行っていました。また、緩和ケア研修会の開催も県内の先生方の御協力・連携を得て、10年になり、がん相談支援センターではスタッフの活動を支える役割を担ってきました。一方、院内では医療者目線の電子カルテシステムの構築を目指し、クリティカルパスの運用に取り組み、少しでも診療がスムーズにいくことで、連携がスムーズになることに取り組んでまいりました。

今後は今までの経験をもとに、もう少し広い視野で仕事をさせていただくこととなります。医療情報の共有による診療連携はICTを活用し、個人情報保護を考慮しながらもっと進めるべきであり、システム構築を進めたい方々と協働したいというのが一番の目標です。また、当院の三本柱の一つであるがん診療では、がん診療連携拠点病院として役割を果たすべく、地域での医療福祉連携体制の推進、顔の見える関係での連携構築をもっと発展させなければならないと考えます。一方、院内におきましては、診療部の1人として、多職種連携やチーム医療の醸成をさらに推し進めていくことで、皆様の信頼にこたえる病院となると考えます。

今後もみなさまのご指導いただきながら、地域医療の一端を担えるよう努力してまいりますので宜しくお願い致します。

# オープンキャンパスを終えて

平成29年7月16日に高校生・社会人を対象として、第1回オープンキャンパスを開催しました。今回は、本校を広く知ってもらい、参加者が看護師という職業や本校の看護教育に興味を持つ機会になるように2年生が中心となって企画・運営を行いました。当日は暑期中、約170名の方が参加されました。

今回の第1回オープンキャンパスは、【学校紹介】、【看護技術の見学や体験】、【在校生との交流会】を行いました。学校紹介では、[学校生活について]、[年間行事の様子]、[実習での学び]、[学生寮での生活]について説明しました。看護技術体験では、[血圧測定]、[呼吸音・心音聴取]、[ベッドメイキング]、[妊婦体験]、[新生児抱っこ体験]、[新生児の衣類交換・身体測定]を体験してもらいました。参加者から「学校での学習や生活がわかってよかった。」「看護師の仕事を体験できてよかった。」「初めての体験で赤ちゃんが思ったより重いことや妊婦さんは大変だということがわかった。」などの意見がありました。また今回、昨年度の参加者からの希望が多かった採血の演習見学を企画しました。参加者から、「技術をみてすごいと思った。」などの意見がありました。在校生との交流会では2年生全員が参加し、学生生活や寮生活、講義や実習について具体的に説明をすることができ、本校に興味をもってもらうことができたと思います。参加者のアンケートで、「楽しかった、この学校についてたくさんを知ることができた。」などの声に加え、「この学校に興味もてた。」との意見を聞くことができました。参加者に楽しんでもらえ、また、本校や本校で学ぶ私たちについて十分に知ってもらうことができたと思います。

今回のオープンキャンパスの開催では、参加者に満足してもらえるように2年生全員が役割を持ち、責任を果たすことで無事成功に導くことができました。今回の経験は私たちの自信となりました。この経験を今後の学校生活や学習に活かしていきたいと思います。

(文責：実行委員長 森永 彩花)



# 新任紹介



麻酔科  
寺園 咲子

8月から勤務することになりました麻酔科の寺園咲子と申します。当院では5年程前に4か月という短い期間ではありましたが勤務させていただいたことがありました。その当時からとても働きやすい環境であり、今回、当院で育児休暇から復職することができ大変感謝しております。時短勤務ではありますが、少しでも役に立てよう頑張りたいと思っております。まだまだ慣れないことばかりでご迷惑をおかけしておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



第1循環器科  
平峯 温子

8月より第一循環器科で勤務させていただきます平峯温子です。5年前に1年目研修医として1年間お世話になりました。今回再赴任ということで、見知った顔も多く、とても心強く感じております。循環器科を目指すことになったのも、ここで過ごした1年間でとても充実したものだったことが大きく影響しています。少しでも恩返しできるように精一杯頑張らせていただきたいと思っております。御指導よろしくお願ひ致します。



皮膚腫瘍科・皮膚科  
吉岡 学

8月より皮膚腫瘍科・皮膚科で勤務することになりました吉岡学と申します。出身は愛知県ですが、大学は福岡県北九州市の産業医科大学で、平成15年に卒業し同大学皮膚科へ入局しました。主に産業医科大学病院および関連病院での勤務をしていましたが、一時期産業医の関連で、名古屋や静岡でも数年勤務をしました。皮膚科専門医取得後は皮膚腫瘍、皮膚外科を専門としていたことで、さまざまなご縁があり今回勤務させて頂けることとなりました。鹿児島は、大学時代テニス部の交流戦で来たり観光で何度か来たりしましたが、まだ知らないところばかりで、ぜひご飯がおいしい店やおすすめスポットなどを教えて頂けると嬉しいです。まだ不慣れでご迷惑おかけするとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



脳血管内科  
谷合 洋造

初めまして。2017年8月1日より鹿児島大学神経内科から鹿児島医療センター脳血管内科レジデントとして異動して参りました谷合洋造と申します。工学部を卒業後は会社員として働いておりましたが、思うところがあり医学部を再受験し医師となりました。初期研修を今村病院分院でさせて頂いた後、鹿児島大学神経内科に入局し、現在後期研修中です。至らぬ事も多く何かでご迷惑をお掛けすることも多いと思っておりますが、鹿児島医療センターの一員として患者様・地域医療に貢献できるよう精進して参ります。ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

## ふれあい看護体験を終えて

平成29年8月8日にふれあい看護体験が行われ、2名の高校生が参加しました。「看護の心をみんなの心に」のテーマのもと、実際に看護の体験をしていただき「いのちの大切さ、思いやり、支えあい」を伝え「看護」への理解を深めてもらえるよう様々な企画を考えました。

血圧測定、車いす体験、環境整備、ベッドメイキングなど患者さんの立場になって体験したり、安全・安楽に過ごすための看護の一部を一緒に体験し、楽しそうな様子でした。

参加した高校生にとって非日常の医療の現場は、イメージと異なる部分も多くあり緊張した様子でしたが、実際に患者さんとの会話や働く看護師の姿を見て看護への興味が深まったと話していました。また2年目看護師の『看護を語る』セッションでは、看護師を目指したきっかけや印象に残っている患者さんとのかわりを交えた話を通して、人のために何かしたいという思いこそが看護の根本であることが伝わったのではないかと感じました。短い時間ではありましたが、忙しい医療現場で患者の一番傍にいる看護師の責任、やりがいがい少しでも伝わり、看護の道に進む仲間が増えてくれるとうれしいです。

(文責：副看護師長 川畑 博美)



### ■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

## 鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻・久保・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

